

CRO講座のご案内

カリキュラム詳細と講師紹介



ALMAC
Asset Liability Management Consulting

株式会社日本アルマック

科目概要

統合リスク管理とCRO

ERMとCRO/リスク開示義務		HRM(人的資源管理)	
【カリキュラム内容】 *統合リスクマネジメントとは *統合リスクマネジメント導入の背景 *自己責任社会と情報開示 *統合リスクマネジメントの登場 *統合リスクマネジメント体制における組織図 *CROのスキル *統合リスクマネジメントの全体像 *統合リスク管理の実行 *到達点	【講師】 浦嶋 繁樹 本講座のねらいを確認し、重要視されている企業の社会的責任を果たすための統合リスクマネジメントとは何であり、その責任者であるCROの役割・位置づけについて、また今後の重要課題：リスク開示についてもわかりやすく解説します。	【カリキュラム内容】 *HRMとは *HRMの構成要素 *HRMのリスクマネジメント *経営変革とHRM	【講師】 片桐 一郎 企業の存続、業績伸展にHRM(人的資源管理)が大きく影響する時代となっています。このHRMを間違えると企業はチャンスを失ったり、重大な問題を引き起こすことになりかねません。HRM戦略の重要性を学びます。
リスクマネジメント組織とCROの役割		企業の危機管理実務	
【カリキュラム内容】 *経済構造の変化とCRO *攻めのRMへの転換 *CROの役割 *リスクオーナーの実務 *CROの戦略的策定業務 *リスクとリターンの整合性に向けた実践的活動 *統合RMの展開に向けた実践活動 *PDCAサイクルの監督者としてのCRO *日本企業とCRO	【講師】 片方 善治 CROの組織での位置づけとシリスク責任者として統合リスクマネジメントを行う際のチェックポイントを活用事例を通じ検証します。	【カリキュラム内容】 *企業の危機管理実務① ・JIS規格の内容(7つの原則) ①リスクの洗い出しと優先順位づけ ②特に対応を要するリスクへの対応 ③緊急時対応 *企業の危機管理実務② ・会社法とJ-SOXとの目的の相違点 ・事業継続戦略の10のポイント ・事業継続計画構築のポイント ・ICSの基礎 他	【講師】 指田 朝久 危機発生時の対応がもたらすリスクは企業にとって重要です。最近の国内における事故や事件への対応、危機管理体制を構築する際の重要なポイントと、構築した体制を形骸化させない工夫について、事業継続やインシデントコマンドシステムなど事例を交えて学びます。
内部統制とリスクマネジメント		CSR会計	
【カリキュラム内容】 *『内部統制』の展開とその枠組み *内部統制の基本と考える *内部統制とリスクマネジメント *リスクを大きくとらえる	【講師】 伊藤 勝教 本講義では内部統制の基本的考え方を再考し、その中心であるリスクマネジメントのステップとして企業的にどのような統一的尺度で洗い出し、プライオリティづけをして対応策に結び付けていくか、考え方と実践的手法を実例を踏まえて解説します。このアプローチが日本版SOX法下の枠組みとどのように関係するのかについても解説します。	【カリキュラム内容】 *CSR会計を構築する際のポイント *CSR活動の「認識」にかかわる会計問題 *CSR活動の「測定」「評価」にかかわる会計問題 *CSR活動の「伝達」にかかわる会計問題 *CSR会計の定義 *CSR会計の基本フレーム：「認識」「測定」「評価」 *CSR会計計算書の体系：「測定」「評価」 *今後の検討課題：「伝達」 他	【講師】 吉田 健一郎 企業の社会的責任(CSR)活動に対する評価は従来、定性的でしたがCSR会計を導入することで定量的分析が可能となります。CSR会計には①財務諸表と連携している点において、CSRへの取組みを統一的尺度で評価できるので、企業組織のあり方の改善と見直しに活用できる②財務諸表の数値をステークホルダーのジャンルに移し変えたことで経済価値の分配状況を明確に表現している。という特徴があり、CSR会計を導入・運用すると企業間の比較や時系列的な分析が可能となり、企業がCSR活動を自己評価して見直す上での手がかりとなります。当講義ではCSR会計の概要と活用法を学びます。
CSRとリスクマネジメント		はじめての有価証券報告書作成実務(初級編)	
【カリキュラム内容】 *CSRとして高まる企業の社会的責任 *CSRの重層化とステークホルダー・リレーションシップ *リレーションシップ・リスク対応としてのリスクマネジメント *内部統制強化の潮流 *リスクマネジメント3局面の処理手段 *企業不祥事の事例研究 *M&A時代のガバナンス・リスクとIR 他	【講師】 藤江 俊彦 近年企業の不祥事や事故、災害などが多発し社会問題となっています。社会との関わりの中で、企業活動の基盤となるCSR(社会的責任)について、コンプライアンスや経営倫理、環境の支店から説くとともに、事故・事件発生時のマスコミ対応など、リスク広報についても解説します。	【カリキュラム内容】 *講座のねらい *Q1:「決算書の種類」とは何か *有価証券報告書の目次例 *有価証券報告書の項目と概要の関係 *Q11「開示書類情報と会計情報の範囲の違い」とは何か *Q14会計から有価証券報告書までの流れ *演習 他	【講師】 児玉 厚 内部統制プロジェクトに参加するメンバーは当然理解していなければならないのが「有価証券報告書」です。しかしその作成方法については理論も学習機関も存在しません。そこで初心者を対象として「有価証券報告書の作成方法の基礎講座(重要論点)」を開催します。

科目概要

オペレーショナル・リスク(Operational Risk Management) / ストラテジック・リスク(Strategic Risk Management)

IR戦略とリスクヘッジ		M&A(理論と実践)	
【カリキュラム内容】 *経営イノベーションと資本市場 *制度的改革とIR *資本市場の直接金融化の進行 *IR活動の実際 *報告書、計画書でのIR	【講師】 藤江 俊彦 IRは企業の資金調達が間接金融から直接金融へと移行し、米国発金融危機による経済環境い厳しい中でその重要性をますます強めています。本講座では、IR戦略のコンセプトとリスク、具体的IR活動の現状と実践から投資家とのコミュニケーション戦略やM&A、企業価値創造との関連などについて、分かりやすく説明し、その流れと全体像を把握します。	【カリキュラム内容】 *M&Aの現状 *中堅中小企業M&A事例 *一般的なM&A実務手順 *主要なM&Aの手法 *M&Aを使った企業再生の例 *M&Aのポイントと留意点	【講師】 大山 敬義 厳しい経済情勢が続く中、企業の存続・発展のための戦略、後継者対策としてのM&A及びグループ再編は企業にとって最も注目すべきテーマのひとつです。経営戦略としてのM&Aについて成功のポイント・注意点を事例を通して学ぶほか、合併、会社分割、株式交換などの企業再編実務について学びます。また企業買収の際の買収企業の評価方法の注意点とポイントを解説します。
カントリーリスク(政治リスクと経済リスク)		コントラクト・リスク・マネジメント	
【カリキュラム内容】 *カントリーリスクとは *カントリーリスク事例紹介 *カントリーリスク分析と評価区分 *カントリーリスク枠とポートフォリオマネジメント	【講師】 増岡 康夫 カントリーリスクには戦争危険、収用危険、送金危険があり、不測の事態がおきた場合の損失は大きく、あらゆるリスクを含んでいます。当講座ではカントリーリスクのための分析、評価法から実例を通して対策立案のポイントを解説します。	【カリキュラム内容】 *プロセスに関するリスク *契約条件・内容に関するリスク *契約に関する紛争におけるリスク	【講師】 名取 勝也 企業活動において契約行為は、非常に重要な意味を持っており、契約にはどのような契約があり、その契約を結ぶ際にはどのような点に注意を払うべきか、契約の当事者の立場に立って解説します。
システムリスクとその対応(IT・情報セキュリティ)		株主代表訴訟と取締役の責任	
【カリキュラム内容】 *環境変化 *増大するシステムリスク *システムリスクの分類 *システムリスクの対応策 *情報リスクマネジメントシステム *セキュリティに対する標準化と法律 *ケーススタディ	【講師】 浦山 昌志 近年、企業の情報管理の巧拙が企業の信用に大きく影響する事例が続発しております。また個人情報保護法などの法的対応に関連して、企業における情報管理リスクをわかりやすく解説し、企業の情報管理体制を考えます。	【カリキュラム内容】 *会社役員をめぐる昨今の話題 *どんな責任を問われるか ~対株主、対第三者 *近時の株主代表訴訟重要事例	【講師】 浜辺 陽一郎 コーポレート・ガバナンスの重要性が高まり、法化社会への進展が進むにつれて取締役が負うべき責任も重くなっています。近時の法令の動向と裁判の傾向を踏まえながら、企業経営者には何が求められるのかを、幅広くかつわかりやすく解説します。
ビジネスの世界で起きている法務・知的財産権問題		企業倫理とコンプライアンス	
【カリキュラム内容】 *企業の知的財産戦略 ・知的財産権とは何か？ ・知的財産権をビジネス上・経営上どう活用していくのか？ *企業の買収・合併・分割 ・企業は何故変化(しない)のか？ ・日本のビジネス社会の法的環境は今後どう変わって行くか？	【講師】 名取 勝也 これからの企業法務戦略のポイントとして、 1. ステークホルダーへのコンプライアンス対応 2. 訴訟、知的所有権戦略 3. 法化社会への対応を中心に事例を交え解説します。	【カリキュラム内容】 *企業倫理とコンプライアンス *コンプライアンス推進と内部統制システム *コンプライアンスが要請される経営環境の変化と対応 *コンプライアンス経営の技法と内部統制のあり方 *内部統制システムの効果的運営への着目・留意点 *今後の課題	【講師】 浜辺 陽一郎 ①コンプライアンス体制のあり方②コンプライアンス実践のポイント コンプライアンスとは何なのか。その必要性和重要ポイントを解説するとともに、基礎的なコンセプトから実践ノウハウにいたるまで、具体的に企業経営者に求められる注意事項を講義します。

科目概要

コーポレートファイナンス

リスクファイナンス(総論、自家保険)		リスクファイナンス(キャプティブ、リスクの証券化)	
【カリキュラム内容】 *リスクファイナンスの全体像 *保険業界とART (代替的リスク移転手法) *リスクマネジメントの全体像 *巨大リスクと保険の限界	【講師】 浦嶋 繁樹 リスクファイナンス手法に関する全体像を解説し、次に第三者から保険を手配するのではなく企業自身が保険会社のような機能を持ち、リスクを保有する自家保険について話を致します。	【カリキュラム内容】 *企業勝ちを高めるためのリスク管理 *リスクファイナンスの基本的な考え方 *リスクファイナンスの種類 *新しいリスクファイナンス手法 *各種手法の概要 *おわりに	【講師】 今田 達雄 リスクファイナンス手法の考え方とキャプティブ、リスクの証券化などの新たなリスク処理手法について解説します。
信用格付けとは何か		企業金融の新展開	
【カリキュラム内容】 *格付けの意義と定義、手順 *起債会格付 *無担保社債の発行ルール *債権格付の特徴 *倒産の定義 *格付機関とその役割 *依頼格付と非依頼格付 *デフォルト率の計算 *社債発行の手続き *財務上の特約とその種類 *財務上の特約を巡る重要な論点 *債務の支払順位 他	【講師】 岡東 務 トヨタ自動車の格付けはなぜAAAになるのか。企業を格付けする時に、格付会社はどのような評価要素を織り込みながら仕事をするのか。一方投資家は格付け情報を積極的に利用した方が大きな成果があがることに気づいていない。この講義ではこうした格付けをめぐる最近の話題も含めてやさしく解説します。	【カリキュラム内容】 *金融証券市場の基礎知識 *金融方式の種類 *情報の非対称性 *間接金融の特徴 *銀行の社会的役割 *企業金融の複線化 *シンジケートローンの仕組み *レバレッジド・ローンとコベナンツ *直接金融の特徴 *ストックオプション *社債と株式の比較	【講師】 岡東 務 企業にとって資金調達には欠かせない。お金がなければ商品を仕入れることも人を雇うこともできない。この講義では企業がお金をどのような方法で調達するのかを解説する。銀行から借りる方法、証券市場から株式や社債を発行して集める方法、さらにはシンジケートローンなどの比較的新しい資金調達などもわかりやすく説明します。
信用リスクと与信管理		リスクの定量的把握の基礎	
【カリキュラム内容】 *信用リスクマネジメントとは *貸し倒れが発生すると *与信管理の実務 *信用調査 *決算書の見方 *信用限度 *担保 *信用度ランク(信用格付け) *信用リスク引当金 *信用VaR *信用リスクマネジメントのアウトソーシングとリスク移転	【講師】 増岡 康夫 取引先に対して与信額をどのように定めるべきか。リスクを小さくするために、どのような対策と監視を行うべきか。また危ない企業の見分け方と対策・監視方法、新規取引先・既存の取引先で危ない企業はどのように見分けるのかについて、その対策、監視手法のポイントを学びます。	【カリキュラム内容】 *リスクとは *リスクなき世界における価値評価 *リスクの軽量化のための基本概念 *リスクある世界における価値評価 *リスクある世界における価値評価に関する若干の補足 *補足*数学的基礎知識の確認	【講師】 小野里 光博 リスクを定量的に把握することの必要性は言うまでもありませんが、実務的には定量化できるリスクはこれを数値で表現し、リスク管理の指標とすることが広く行われています。このリスクの定量化には数学的な知識が不可欠ですが、講義ではリスクの定量化に必要な期待値・分散・標準偏差・正規分布といった基本的な概念を直感的に把握できるよう、数学的な道具立ては必要最小限にとどめ、わかりやすく説明します。
デリバティブ取引の基礎			
【カリキュラム内容】 *リスクヘッジの手段としてのデリバティブ-先物 *リスクヘッジの手段としてのデリバティブ-スワップ *リスクヘッジの手段としてのデリバティブ-オプション *デリバティブについて	【講師】 河村 幹夫 リスクヘッジの手段としてのデリバティブについて、基本となる理論を学びます。また先物取引とオプションについても説明を行うとともに実際にデリバティブを利用する際に注意する点をできるだけわかりやすく解説します。		

講師紹介

浦嶋 繁樹 Shigeki Urashima



(株)日本アルマック代表取締役 シニアリスクコンサルタント®
NPO法人日本リスクマネジャー & コンサルタント協会 専務理事
会計参与推進機構 専務理事
新潟大学大学院特任教授
立教大学大学院兼任講師

リスクコンサルタントの草分け的存在。企業は「リスクを確実に取
ることで発展できる」と提唱。「リスクマネジメント」をテーマに金融機
関、大手企業、官公庁を対象としたセミナーの講師を務めるととも
に企業に対して、コンサルティングなど、幅広く活動している。

片方 善治 Zenji Katagata



国連開発計画 NPO法人日本DEVNET協会会長
工学博士、情報文化学会名誉会長
NPO法人日本リスクマネジャー & コンサルタント協会理事

米国カーネギー・メロン大学工学部電子工学専攻卒。同大学院及
び米国コロンビア大学大学院通信工学・論文コース修了。日本電
信電話公社(現NTT)、東京工業大学等を経て現在に至る。総合
リスクマネジメント分野の第一人者として、著作・講演等を通じて
普及活動を行っている。

今田 達雄 Tatsuo Imada



(株)インターリスク総研 コンサルティング第一部
主席コンサルタント

<専門領域>
企業の総合的リスクマネジメント・プログラムの設計と運
営、リスクファイナンス、キャプティブマネジメント

東京大学工学部都市工学科卒。住友海上火災保険(株)(現:三井
住友海上保険(株))入社、主に新種保険の引受・営推業務に従事。
その後8ヶ月間、世界最大の再保険会社であるミュンヘン再保険
会社にて研修を受け、再保険部門にて活躍。総合コンサルティン
グ部、企業営業推進部を経て、現職場に転出。

藤江 俊彦 Toshihiko Fujie



千葉商科大学 政策情報学部・
大学院 政策情報学研究科教授
経営アナリスト

慶応大学法学部政治学科卒。企業にてビジネスキャリア、早稲田
大学大学院商学研究科講師、淑徳大学教授を経て、現職。日本
経営管理協会副理事長、日本広報協会広報アドバイザー、東京
金融先物取引所規律委員会委員長。内閣府、環境省、経済産業
省など各種委員として活躍。全能連認定マスター・マネジメントコ
ンサルタント。

片桐 一郎 Ichiro Katagiri



ワトソンワイアット株式会社
ディレクター・コンサルタント

東京大学工学部卒。スタンフォード大学工学部大学院卒
(MS1987)、小松製作所(現コマツ)、マッキンゼー・アンド・カンパ
ニーを経て入社。事業戦略、組織設計、研究開発、人材戦略など
のコンサルティング経験が豊富。組織と人材マネジメントの改革、
リーダー開発、研究所活性化、外資系金融機関のM&A関連プロ
ジェクトなどに従事。

浦山 昌志 Masashi Urayama



株式会社IPイノベーションズ 代表取締役
中小企業診断士(情報)、システム監査技術者
ASTDインターナショナルジャパン 理事・事務局長

松下電器産業、株式会社CSKを経て独立。
IT教育ビジネスの企画、運営などを長年にわたり手懸ける。
またDocent等のLearning Management System の日本市場にお
ける導入にも先駆的に力を注ぐ。
2003年 株式会社IPイノベーションズ設立。

吉田 健一郎 Kenichiro Yoshida



麗澤大学企業倫理研究センター研究員/同大学経
済学部兼任講師
中央大学商学部・明治学院大学経済学部兼任講師

R-becにおいてCSR会計プロジェクトに参画し、CSR経営を推進す
るためのCSR測定・評価モデル構築に取り組む。現在では企業に
おける情報倫理の普及に関する研究を行い、Diffusion Theoryの
新たな展開を試みている。また、研究・教育活動の傍ら、CSRの
開示に関するコンサルティングを行っている。

指田 朝久 Tomohisa Sashida



東京海上日動リスクコンサルティング(株)
情報グループ グループリーダー
桜美林大学ビジネスマネジメント学部 非常勤講師
特定非営利活動法人 事業継続推進機構 副理事
長

東京大学工学部計数工学科卒業後、東京海上火災保険(株)入社。
情報システム、リスクマネジメント業務部を経て、現職。
京都大学博士(情報学)
情報処理技術者システム監査、気象予報士の資格を持つ。

講師紹介

浜辺 陽一郎 Yoichiro Hamabe



弁護士
早稲田大学大学院 法務研究科(法科大学院)教授(専任・客員教授)
佐賀県コンプライアンス委員会委員

慶應義塾大学法学部卒。都内の渉外法律事務所にて多数の企業法務に携わる。その後、アメリカ留学、シカゴの法律事務所に勤務。ニューヨーク州弁護士資格取得。帰国後は都内の渉外法律事務所を経て、現在弁護士法人早稲田リーガルクリニック所属。日本経営倫理学会会員、国際商取引学会会員など幅広く活躍中。

増岡 康夫 Yasuo Masuoka



丸紅インフォテック株式会社 取締役
CRM-IT物流本部担当役員

1948年生まれ。東北大学法学部卒業。1971年丸紅飯田(現丸紅)入社。2000年リスクマネジメント総括部長。2002年丸紅マネジメントリソース株式会社常務取締役(兼)マリックス株式会社社長。ほぼ一貫して与信並びにM&Aに関わる企業審査業務に従事。2004年6月丸紅インフォテック株式会社取締役に就任。

河村 幹夫 Mikio Kawamura



多摩大学教授。博士(経営学)
多摩大学統合リスクマネジメント研究所長
特定非営利活動法人日本CRO協会理事長

1935年生まれ。一橋大学経済学部卒業。三菱商事株式会社に入社。米国・カナダ・英国の海外勤務を経て同社取締役となり新設の情報産業部門を担当。1994年退任と共に多摩大学教授となり今日に至る。
ライフワーク:企業のリスク管理。

小野里 光博 Mitsuhiro Onosato



東京工業品取引所理事
多摩大学大学院客員教授

東京大学工学部 都市工学科 都市計画コース卒業後、ディベロッパー、シンクタンクを経て、東京工業品取引所入所。同所企画部部長・理事、企画・広報担当を歴任。同所市場構造研究所 副所長を兼務。一級建築士。

名取 勝也 Katsuya Natori



日本IBM株式会社 取締役
弁護士

慶應義塾大学卒業。1983年司法試験合格。弁護士とMBA資格とビジネスの実践経験を持ち、コンプライアンス分野では第一人者。1990年法学修士号、1993年MBA取得。同年エッソ石油(株)法務部弁護士、アップルコンピューター(株)法務本部長、サンマイクロスシステムズ(株)取締役法務本部長、(株)ファーストリテイリング執行役員法務部長を経て、2004年日本IBM株執行役員。2005年同社取締役。

大山 敬義 Takayoshi Ohyama



株式会社日本M&Aセンター 経営支援室室長
特定非営利活動法人 日本企業再生支援機構 専任アドバイザー

立教大学社会学部卒業。日本スリーエス株M&A室勤務後、平成3年(株)日本M&Aセンター設立に伴い、同社最初のM&Aコンサルタントとなる。以来15年にわたり60件以上のM&A案件の成約実績をもつ。中小零細企業のM&Aによる事業承継の仲介、コンサルティング及びグループ内外の企業再編手続きのほか、最近ではNPO法人日本企業再生支援機構専任アドバイザーとしてM&Aを活用した企業再生コンサルティングを専門としている。

児玉 厚 Atsushi Kodama



公認会計士・税理士

昭和57年埼玉大学経済学部卒業、神鋼商事(株)財務部、東陽監査法人を経て、現在(株)スリー・シー・コンサルティング代表取締役。「決算報告エクスプレス(商法決算・決算短信自動化システム)」<特許出願>

岡東 務 Tsutomu Okato



阪南大学大学院企業情報研究科兼経営情報学部非常勤講師、専修大学経営学部非常勤講師

同志社大学商学部・神戸大学大学院経営学研究科修士課程修了後、(株)日本経済新聞社入社。その後、日本経済研究センター委託研究生、日本経済新聞社証券部、流通経済部を経て、日本公社債研究所へ出向。総合企画室長、業務推進部長などに従事。その後阪南大学大学院企業情報研究科兼経営情報学部へ赴任。

第6期 CRO(最高リスク管理責任者)養成講座 カリキュラム

月日	時間	講義/演習名	講師(敬称略)	所属
1/10	10:30-12:30	ERMとCRO/リスク開示義務	浦嶋 繁樹	(株)日本アルマック 代表取締役
	13:30-15:30	リスクファイナンス(総論、自家保険)		
	15:45-17:45	リスクマネジメント組織とCROの役割	片方 善治	国連開発計画 NPO法人日本DEVNET協会会長
1/17	10:30-12:30	リスクファイナンス(キャプティブ、リスクの証券化)	今田 達雄	(株)インターリスク総研 総合リスクマネジメント部 首席コンサルタント
	13:30-15:30	CSR会計	吉田 健一郎	麗澤大学兼任講師 同大学企業倫理研究センター 研究員
1/24	10:30-12:30	HRM(人的資源管理)	片桐 一郎	ワトソンワイアット(株) ディレクター
	13:30-15:30	IR戦略とリスクヘッジ	藤江 俊彦	千葉商科大学政策情報学部・大学院政策情報学 研究科教授 大手前大学現代社会学部客員教授
	15:45-17:45	CSRとリスクマネジメント		
1/31	10:30-12:30	システムリスクとその対応 IT・情報セキュリティ	浦山 昌志	(株)IPイノベーションズ 代表取締役
	13:30-15:30	企業の危機管理実務①	指田 朝久	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 情報グループ グループリーダー 桜美林大学ビジネスマネジメント学群非常勤講師
	15:45-17:45	企業の危機管理実務②		
2/7	10:30-12:30	内部統制とリスクマネジメント	調整中	
	13:30-15:30	信用リスクと与信管理	増岡 康夫	丸紅インフォテック株式会社 取締役 CRM・IT物流本部担当役員
	15:45-17:45	カントリーリスク(政治リスクと経済リスク)		
2/14	10:30-12:30	株主代表訴訟と取締役の責任	浜辺 陽一郎	弁護士 ニューヨーク州弁護士 早稲田大学大学院法務研究科(法科大学院)教授 (専任・客員教授) 株式会社テレウェイヴ監査役(社外監査役)
	13:30-15:30	企業倫理とコンプライアンス①		
	15:45-17:45	企業倫理とコンプライアンス②		
2/21	10:30-12:30	M&A(理論と実務)	大山 敬義	株式会社日本M&Aセンター 経営支援室 室長 特定非営利活動法人 日本企業再生支援機構専任アドバイザー
	13:30-15:30	コントラクト・リスク・マネジメント	名取 勝也	日本アイ・ビー・エム株式会社 取締役
	15:45-17:45	ビジネスの世界で起きている法務・知的財産権問題		
2/28	10:30-12:30	リスクの計量的把握①	小野里 光博	東京工業品取引所理事 多摩大学大学院客員教授
	13:30-15:30	リスクの計量的把握②		
	15:45-17:45	リスクの計量的把握③		
3/7	10:30-12:30	はじめての有価証券報告書作成実務(初級編)	児玉 厚	公認会計士・税理士 (株)スリー・シー・コンサルティング代表取締役
	13:30-15:30	信用格付けとは何か	岡東 務	阪南大学大学院企業情報研究科兼経営情報学部非常勤講師 専修大学経営学部非常勤講師
	15:45-17:45	企業金融の新展開		
3/14	10:30-12:30	デリバティブの基礎①	河村 幹夫	多摩大学教授 博士(経営学) 多摩大学統合リスクマネジメント研究所長 特定非営利活動法人日本CRO協会理事長
	13:30-15:30	デリバティブの基礎②		
	15:45-17:45	演習プレゼンテーション	浦嶋 繁樹	(株)日本アルマック代表取締役
	18:00-19:30	CRO資格試験(任意)	NPO法人 日本リスクマネジャー&コンサルタント協会	

☆日程等の調整の都合により開催日程・時間・講義名・講師などを変更することがあります。

☆会場:株式会社日本アルマック リスクマネジメント教育センター 5Fセミナー室(東京都千代田区麹町4-5 桜井ビル5F)

☆受講料:上級受講者の方は受講料が¥299,250となります。(通常¥399,000)



お問合せ先

株式会社日本アルマック リスクマネジメント教育センター

TEL : 03-3288-2755 FAX : 03-3288-2757

<http://www.almac.co.jp> E-Mail : rc_kouza@almac.co.jp